

【努力する自分を楽しめるように】

平成三十年 八月 全校集会 校長メッセージ

おはようございます。今日から全学年揃っての登校となりました。一学期の終業式は、連日の猛暑で、体育館内の大幅な気温上昇も見込まれていたため、熱中症予防を優先して、安全を第一に、校内放送で行いました。したがって、今日は、四十一期生、四十二期生、四十三期生の生徒全員が一堂に会して話をする初めての機会になりました。

さて今年、六月の大阪北部地震や、七月の西日本豪雨、相次ぐ台風の襲来、連日の記録的猛暑など、私たちが直接影響を受けるような災害が続きました。海外では、インド南部が過去百年で最悪の洪水に襲われたり、台湾も洪水被害が出たり、アメリカやカナダでは乾燥で過去最大の山火事が広がったりなど、世界中が大きな気象変動に巻き込まれています。また、子どもや女性が被害者になる犯罪や事件も相変わらず目立ちます。自然災害や事件、事故に対しては、人命を第一とした判断や、解決が求められます。学校として、改めて、生徒の皆さんや教職員の命を守ることを最優先に、対応していきたいと思えます。

今日、登校途上の車窓から田んぼを見ると、既に稲穂が黄色く垂れ下がっている所もあり、五週間の時の経過、秋が近づく気配を感じさせてくれています。一学期の終業式では、せっかくの夏休みという時間を有効に使ってもらいたい、そのために、色々な機会を利用して自分の将来を考えてみたり、読みたい本を見つけてじっくり読んだり、それに加えて、一学期の復習で学力を強化するにも良い時間だという話をしました。皆さん充実した夏休みは過ごせましたか。

私は、昨日、東京大学名誉教授で、森林と建築を結ぶ分野の第一人者として活動されている安藤直人先生のお話を聞いてきました。2020年に行われる東京オリンピックのメインスタジアムである「新国立競技場」が、木で造られるというのは、皆さんも聞いていることかもしれませんが、今、建築の世界では、これまでの鉄と石を軸にした建築から、耐震や耐久性では寧ろそれらを上回る、木材による建築が世界中で大きな流れになりつつあることを聞いて驚きました。東京大学農学部の弥生講堂は、木造の建物自体は三百年間充分持つけれども、土台の鉄とコンクリートはそこまでの耐久性が無いので、いずれは移し替える必要があるようです。二十世紀に常識と思っていたことが、大きく変わりつつあることを学び、何か不思議な、でも嬉しい気分になりました。

皆さんが今、教科書で学んでいることも、科学や技術の進歩によって、実は正解がこの先どう変わっていくか分からない、そんな時代を迎えていることを

実感します。正解が変わる、正解が分からなくなる、そんな時にこそ、自分の頭で考える習慣をつけておくことがとても大事になります。高校時代は皆さんのヒトとして脳と身体が大きくなる最後の成長の時間です。この好機に、是非頭と身体を充分鍛えて、大きな成長を遂げて欲しいと願います。

もうひとつ話をします。この夏休みに、私は何冊かの本を家で読みました。昔一度読んでいてまた読み返してみた本の中に、「Good Luck」という絵本のような短編があります。一時間もあつたら読めるような本ですが、概略だけ言うと、幸運というものは、誰にでも平等に、同じように訪れているものだけれども、それを掴むか、掴まないかは、その人に幸運を受け入れる準備が出来ているか、出来ていないか、によるというものです。

同じように人の話を聞くにしても、真剣に聴いて、自分で咀嚼して考える。

自分なりに考えたことを自分で汗をかいて実行する。

更に何か足りないところがあるようなら、また人に聴く。

もう一度自分で考えて実践してみて、何度もその繰り返しをする。

人に聴く時は、ともかく謙虚に聴く。

自分で考える時には、五感を使って、気づくことを大切にする。

努力することを惜しまず、むしろ努力する自分を楽しめるようになる。

そんなことの中に、幸運を受け入れられる準備ができる。

そんな本でした。図書館にもあると思います。気になる人は、一度手に取ってみてください。

二学期の始めに当り、以上のことを伝えて、校長からのメッセージとします。

平成三十年八月二十七日 牧野高等学校 校長 日 笠 賢